外国籍の住民が２％にも満たないこの松本という地域で、多文化共生や多様性という言葉に、親近感を持たない人も多いのかもしれません。

しかし自分は、「多様性が活かされる社会を構築していくこと」は、この地域の皆にとっても重要なことだと考えています。それは、「今後外国籍住民の数が増えていくことが見込まれているから」、ということだけではありません。

また、多文化共生や多様性を重んずるというのは、単に「海外から来た人々と仲良く暮らしましょう」ということでもありません。

それは、出身国に関わらず、性別に関わらず、障がいの有無に関わらず、そして育ってきた家庭環境にも関わらず、多様な人々が互いに尊重し合い自身の力を発揮できる地域社会の構築を目指すものであると考えます。

現実を見ると、日本の２０１９年の世界男女格差指数は、１５３カ国中１２１位です。この順位から見えてくるものは、社会全体の約半数を占める女性であっても、この地域社会の中で十分な力を発揮することが困難であるという現状です。

ソーシャルワークは、多様な人々が、社会の中でより自分の能力を発揮してもらうためのサポートを提供する仕事です。

これは、県陵が自分たちにしてくれたことと同じです。

微力ではありますが、これからも、多様な人々とともに、皆が輝ける社会を構築する助けができればと思います。

初の女性応援団長として

高72回　杉本　芽生

第71代縣陵応援団、団長の杉本芽生です。

私は縣陵史上初の女性応援団長として、1年間活動してきました。

周りからは様々な意見を頂き、不安の大きい中でのスタートでした。

時代が目まぐるしく変化していく今、これまでの前時代的な応援練習をそのままの形式で受け継いでいくのは難しいのではないか、という思いが私の中にありました。そこで私は「伝統をただ受け継ぐだけでなく、進化させて受け継ぐ」を目標として応援団長となりました。もちろん、この目標を達成することは容易ではありませんでしたが、応援団の仲間と支え合い、時にはぶつかり合い、何度も試行錯誤を重ねることで、目標に近づけることが出来ました。

私が応援団を目指した理由は、「縣陵を代表する応援団として活動している先輩の姿に憧れた」という単純なものでした。

当時、まだ新入生だった私にとって初めての応援練習は確かに理不尽で、怖いものでした。しかし、その中からにじみ出る応援団の先輩方の熱意を感じ、自分もその熱意を伝えられる人間になりたい、そう思い、応援団に立候補しました。初めての援団練習は新入生応援練習とは比べ物にならないほど苦しい1週間でしたが、たった1週間の練習でも自分の理想に近づけたような気がしました。

後輩ができたとき、自分の思いを伝えるにはどうすればいいかを模索する毎日でした。そんな中で、自分が応援団への入団を決めた春の新入生応援練習が始まりました。

たった1週間、されど1週間。私は不安と緊張で何度も押しつぶされそうになりました。しかし最終日、晴れ晴れとした顔の新入生を見て、思いが伝わった、自分の憧れた応援団になれた、そう感じました。

私が初の女性応援団長として活動できたのは、仲間の存在があったからこそです。

最後まで支えてくれた仲間たち、先生方への感謝を胸に自分の道を歩んでいこうと思います。

これからの縣陵応援団の進化を期待しています。

総合建設業・一級建築士事務所・宅地建物取引業
ひとに優しい未来を創る
ASUPIA
AMENITY, SECURITY & UTILITY for UTOPIA
株式会社 アスピア
代表取締役　百瀬方康（高22回）
本社：長野県松本市宮渕1-3-30 〒390-8639
TEL 0263-32-8855　FAX 0263-35-1618

天神 深志神社
TEL 0263-32-1214
深志神社 梅風閣
TEL 0263-32-6310
宮司 遠藤久芳（高19回）一九会
〒390-0815 松本市深志3-7-43
FAX（0263）32-5908

TADACHIYA
SINCE 1848
徳 田立屋
代表取締役　大宮康彦（高17回）
長野県松本市大手3-3-4（大名町）
TEL 0263(32)0057　FAX 0263(34)2561